

平成24年度奈良県地域教育力サミット 第1部会(地域の参画・協働による教育部会)

【オープンセミナー】「学校コミュニティの推進」 ～今、求められるパートナーシップ～

- 1 日時及び会場 平成25年1月9日(水) 9:45 ~ 12:00
奈良県産業会館 大ホール(大和高田市幸町2番33号)
- 2 参加者 各市町村教育委員会教育長、各学校長、教育委員会関係者等 370名
- 3 内容 9:45~ 9:55 オープニング(プレゼンテーション)
「学校コミュニティの推進」(Nara Model)
奈良県教育委員会事務局 人権・地域教育課長
- 9:55~10:05 開会行事 挨拶 奈良県教育委員会教育長 富岡 将人
- 10:05~11:00 講演
演題 「学校と地域が協働で子どもを育てる」
講師 文部科学省初等中等教育局
コミュニティ・スクール推進員 高木 和久氏

- 「開かれた学校づくり」は、校長の経営力を引き出す大きな原動力となる。
- 10年、15年後どんな地域になって欲しいか、次代を担う子どもたちをどう育てるかを考える。
- ボランティアのグローバルな発想はイノベーションの契機。子どもと地域を育てる理論を構築する。
- 地域の価値観を受容し、人の強みをつなぎあわせ、変化の自覚が味わえる取組にする。奈良県でも着実、継続的な取組を期待する。



11:00~11:55 パネルディスカッション

テーマ 「地域と共にある学校づくりを目指して」
コーディネーター：奈良教育大学教職大学院 教授
パネリスト：講演者
奈良県PTA協議会 会長
下市町立下市小学校 校長
大和高田市立浮孔小学校 校長

松川 利広
高木 和久
出口 隆司
藤田 謙治
西川 知恵巳

- 「学校コミュニティ」「地域と共にある学校づくり」は現実味を帯びてきた。
- 奈良モデルが、全県に広がり定着していくことを期待している。
- 学校として、子どもたちの地域への帰属意識を高め、社会的な絆を強め、規範意識の醸成や基本的な生活習慣の確立につなげたい。
- 校内での熟議が大切で、地域・保護者の果たす役割を互いに理解し、息の長い活動にしていきたい。
- 地域の方と一緒に話ができる教職員を頼もしく感じている。
- 学校としてこれまで以上に外に向けて発信していく必要がある。
- 学校と保護者・地域が議論する場があると、活動への保護者の参加範囲が明確になりわかりやすい。
- 学校を核としたつながりで、多面的な支援を行い、学習環境を安全で豊かなものに変えることができる。
- 子どもの卒業後も継続的に活動に参加してくれる保護者を、うまく活用できるのではないかな。
- 地域、保護者にメリットがないと取組は進まない。
- ボランティアのように、子どもを評価せず、心を許して話せる立場の人は貴重な存在である。



11:55~12:00 閉会行事 挨拶 奈良県教育委員会教育委員長 松村 佳子

講演者及びコーディネーター、パネリストのご紹介

<講演>

講演者：高木 和久（文部科学省初等中等教育局 コミュニティ・スクール推進員）



<経歴>

- 平成15年 滋賀県湖南市立岩根小学校長
- 平成17年 滋賀県社会教育委員（2期）、滋賀県人権教育研究会会長
- 平成19年 湖南市立岩根小学校のコミュニティ・スクールを立ち上げる
- 平成21年 湖南市教育研究所所長
コミュニティ・スクール推進協議会（東京会場）事例発表者
- 平成22年 コミュニティ・スクール推進協議会（滋賀会場）事例発表者
- 平成23年 地域とともにある学校づくり推進協議会（熊本会場）事例発表者
- 平成24年 文部科学省初等中等教育局コミュニティ・スクール推進員
（CSマイスター）
全国社会教育主事研究協議会 学校・家庭・地域連携部会講師

<パネルディスカッション>

コーディネーター：松川 利広（奈良教育大学教職大学院 教授）



奈良教育大学附属中学校校長（併任）

日本国語教育学会（理事）、表現学会（理事、編集委員）、日本教師教育学会、日本児童文学学会、奈良県子ども読書活動推進会議委員（平成15年～）、奈良市子ども読書活動推進委員（平成16年～）、奈良県NIE推進協議会会長（平成23年～）

【おもな著書】

- 『「言語活動」を生かして確かな「国語の力」を身につけさせる』（学文社、平成24年）
- 『語彙に着目した授業をつくる（語彙表編）』（光村図書、平成23年）
- 『子どもの育ちと「言葉」』（保育出版社、平成22年）

パネリスト：



高木 和久
（上 述）



出口 隆司
（奈良県PTA協議会会長）



藤田 謙治
（下市町立下市小学校長）



西川知恵巳
（大和高田市立浮孔小学校長）

（※敬称略）